

## インドネシア事業、非日系向け融資拡大＝三井住友FGの北山社長

【ジャカルタ15日時事】三井住友フィナンシャルグループ（FG）の北山禎介社長（三井住友銀行会長）は15日、インドネシアでの事業展開について、今後は日系企業以外に対する融資を拡大する考えを明らかにした。現地子会社インドネシア三井住友銀行の創立20周年記念式典に先立ち、日本の報道機関との会見で語った。

同社長は、インドネシア三井住友銀の社外取締役を一時務めた2002年に比べ現在の金融情勢は回復しており、融資拡大の可能性が大きいと指摘。特に日系企業以外への融資拡大を有望視していると述べた。

このほかサービス面では、キャッシュ・マネジメント・サービス（CMS）など各種サービスを三井住友銀シンガポール支店の支援を通じて行っており、今後も一層のサービスの質向上を目指すと説明。リテール業務参入については「十分な適性調査が必要だ」とする一方、地元銀行との提携を通じた参入も一案だと述べた。

同社長はまた、日本のアジア生産性機構（APO）が来年3月4～7日にジャカルタで環境総合展示会「第6回エコプロダクツ国際展」を開催することを明らかにした。インドネシア商工会議所（KADIN）および同国生産性本部との共同開催で、同社長は準備委員会委員長を務める。

会場は南ジャカルタのジャカルタ・コンベンション・センター（JCC）で環境にやさしい製品やサービスを展示。同社長によると、今年3月のフィリピン・マニラ開催を上回る10万人の来場を見込んでいる。



インドネシアでの事業展開を語る北山禎介社長＝15日、ジャカルタ（片山哲司撮影）

### 【ソウルだよ】 もてなし

韓国と東南アジア諸国連合（ASEAN）の対話関係樹立二十周年を記念し、済州島で六月一、二の両日開催された特別首脳会議。外交の地平をアジア各国に広げたい李明博大統領は、最終日の昼食会でエプロンを腰に巻き、ASEAN首脳らに串焼きを自ら振る舞うなど、歓待の限りを尽くした。

華やかな外交の舞台裏では、報道陣が辛酸をなめた。会場周辺は厳戒態勢が敷かれ、会場と主要ホテルをつなぐシャトルバスが運行された。ところが最終便は午後八時。警備の都合で会場近くにはタクシードも進入できず、夜遅くまで働いた記者らは重い足を引きずり、数十分の「夜の散策」を余儀なくされた。

韓国政府当局者によるメディアへのブリーフィングもたびたび「ドタキャン」。極め付きは最終日で、李大統領とASEAN議長国タイのアピシット首相による共同記者会見が終わり、会議が閉幕するや否や、プレスセンターの撤去作業が始まった。耳をつんざくごう音の中、懸命に記事執筆する国内外の記者。これも韓国のせつかちなお国柄なのだろうが、メディアに対しても、ASEAN首脳に見せたような「おもてなしの心」が少しは欲しかった。（祐）

